

OSIPPは大阪大学大学院国際公共政策研究科(Osaka School of International Public Policy)の略称です。

栗栖、鈴木^{くるすかおる}助教授^{すずきわたる}が着任

OSIPPの助教授に栗栖薫子氏が10月1日付けで、鈴木亘氏が6月16日付けでそれぞれ着任した。

栗栖氏は1991年上智大学外国語学部卒、在学中に米カリフォルニア大学で1年間学ぶ。上智大では緒方貞子氏のゼミに所属。東京大学大学院総合文化研究科国際関係論専攻で修士、博士課程を経て、その後九州大学大学院比較文化研究科で助手を、神戸大学国際文化学部で講師、助教授を務めた。

国際政治学が専門で、人間の安全保障や制度論、ガバナンス論などについて、ヨーロッパの例を中心に分析。さらにバルカンなど欧州周辺地域の紛争、平和構築についてどのような制度があるかなどを探り、ボス

ニア、アルバニア、コソボなどの比較研究も行う。

主な論文に「欧州安全保障協定会議(CSCE)の人的次元 - レジーム論による分析 - 」「『国際政治』(112号)、「人間の安全保障」『国際政治』(117号)、著書に『予防外交』(共著、三嶺書房)、『新しい安全保障論の視座』(共著、亜紀書房)などがある。

OSIPPの印象は「活気があり、学生が積極的にアプローチしてくること」。学生へのメッセージとして、在学中に国際機関のインターンシップや調査活動を通して積極的に現場を見ることを勧める。視野が広がり自分の研究への意義付けにもなるのでぜひ挑戦してほしい

人間の安全保障を先駆的に(栗栖氏) 医療と福祉を経済学で分析(鈴木氏)

いと言う。

同氏は11月にOSIPPで集中講義「人間の安全保障」を担当した後、同月から来年9月まで英ケンブリッジ大学などで在外研究に従事、OSIPPにはその後復帰する。

鈴木氏は94年上智大学経済学部卒業後、日本銀行に入行。2000年に大阪大学大学院経済学研究科博士課程修了(経済学博士)、同社会経済研究所助手を

経て現職。

専門は、医療経済学、年金論、福祉の経済学。従来、社会学、福祉学などに偏りがちなこの分野に、効率性や合理性を重んずる経済学の基本ツールを使ってメスを入れることを目指す。「最近では異分野とのケンカの仕方にも磨きがかかり、自分でも過激と感じるそうで、「政策に影響を与えることにやりがいを感じる」と言う。

主な論文に、「国民年金未加入者の経済分析」『日本経済研究』、「非営利訪問介護業者は有利か?」『季刊社会保障研究』など。

「OSIPPの研究は学際領域だが、メインストリームの経済学に評価されにくい領域だからこそ基礎固めが大事」と語り、「学際であるから一つ一つは良く知らなくてもいいという甘えを捨ててこそ、就職市場で勝ち残れる」と強調した。

NPO 研究情報センター発足

NPO(Nonprofit Organization、民間非営利団体)に関する研究・教育促進を目的とした「NPO研究情報センター」が今年4月、OSIPP直属の研究センターとしてOSIPP棟内に設立された。NPO研究における国際拠点として、アジア・太平洋地域の中心的役割を担うべく、意欲的なプロジェクトが行われている。

日本のNPO研究者はまだ数多くなく単独の大学で専門コースを設けるのは困難という現状を受け、同センターでは日本NPO学会と協力し、国内外の大学をインターネットによる遠

隔講義システムで結び、バーチャルなNPO大学院を開設する準備を進めている。

米ジョンズ・ホプキンス大学を中心に進められているNPO国際比較プロジェクトには95年以降OSIPPが日本を代表して参画しており、延世大学、清華大学などアジアの大学とも研究交流を進めている。

また、今年度から4年間の予定で大規模なNPO研究プロジェクトが始まったほか、阪大フロンティア研究機構の雇用創出プロジェクトもこのセンターを中心に進められている。内閣府や日本総合研究所と連携しつつ「ソーシャル・キャピタル」に関する学際的な研究も

アジア・太平洋の国際拠点を目指す